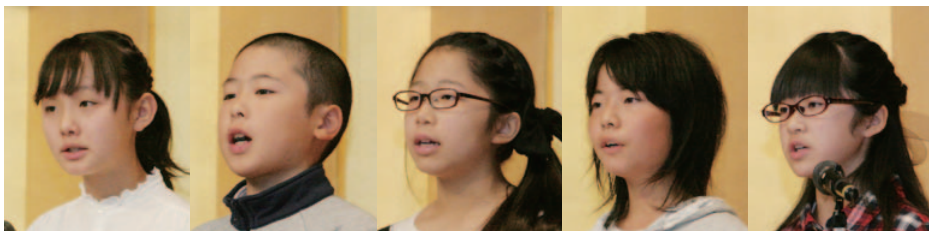


11月3日に中央公民館で行われた
第30回鞍手町「少年の主張」大会。
町内の小学5・6年生、中学生の代表が
それぞれに自分の思いを主張しました。
その中から最優秀賞に選ばれた3つの作品を紹介します。



主張した子どもたち(敬称略)

【写真左から】

- ・家族への感謝の思い
安田 結音(剣北小)
- ・福祉体験を通して学んだこと
花田 大輔(古月小)
- ・平和を考えることの大切さ
大村 あい(剣南小)
- ・心と心、寄り添って
佐土原涼葉(新延小)
- ・笑っていた時のおじいちゃんにもどって
中村 優花(西川小)

◎5年生の部 最優秀賞
*税金を通して
地域と関わる



しばた ゆき
芝田祐希さん
(室木小学校)

*主張を終えて…たくさんの方の前で、自分の思いを主張してみたかったので、主張大会に出場しました。本番では「はっきり・ゆっくり・大きな声」を意識しました。最優秀賞に選ばれてびっくり!とっても嬉しいです。

いろいろなところで発生しています。そういった税金は、どのように使われるのでしょうか。

税金の使い道の一つとして、学校や保育所の建設や警備、そして警察や消防、自衛隊などの運営があります。私が特に驚いたことは、小学校で児童一人にかかる教育費に、一年間で八十六万三千円、六年間で約五百二十万円の税金がかかっていたことです。だから教科書や学校で使うボールやチョークなどの備品は大切に使うと思いました。

もし税金がなくなったら大変です。学校に通うのにお金が必要になり、学校に通うことのできない人も出てくるかもしれません。警察、消防車、道路など今まで当たり前になるかもしれません。それが有料になるかもしれない。そうなるなら私たちの生活はとて不便利になります。だから税金は、私たちの生活になくてはならない大切なものだと思います。

三年前、私の小学校が火事になった時、鞍手町の税金で復興工事をしました。これは、地域の皆さんが働いて納めてくださった税金です。これで焼失した道具箱も買ってもらいました。おかげで新学期が始まる時には、焼失した部屋など、すべてが元通りになっていました。私は、火事があったとしてもショックでしたが、元通りになっていて、とても安心しました。地域の皆さんにとっても感謝したことを今でも覚えています。皆さんが納めた税金で、私たちの生活が成り立っていることが分かりました。

今、私は、皆さんが納めてくださった税金で、勉強などいろいろなことができています。私がお大人になったら、その時の感謝の気持ちを忘れずに、次の世代の子どもたちが、より良い生活が送れるように税金を納めていきたいです。

私

は、今まで「税金」という言葉を聞いたことがありませんでしたが、税金がどのようなもので、どのように使われているのかわかりませんでした。そこで、税金のことについて詳しく知りたいと思います。夏休みに税金教室に参加しました。話を聴くと、「税金は、ものすごく国民の役に立っている」と思いました。

税金教室では、税金の使い道は、大きく分けて三つあると学びました。一つ目は、私たちの安全を守るため。二つ目は、私たちの健康や生活を守るため、三つ目は、私たちが教育を受けられるようにするためにあると学びました。

税しか知りませんでした。ほかには、どんな税金があるのでしょ

うか。税金教室で、消費税のほかに、自動車税、町民税、所得税など、日本には約五十種類の税金があると知りました。でも全部は納めません。それぞれの税金で納める人が異なります。

例えば、消費税は商品を買うときに納めます。子どもから大人、誰もが納める税金です。その消費税八パーセントのうち、六二パーセントは国に入る税金で、一七パーセントは地方に入る税金です。そのほか自動車税は車を持っている人が納めます。町民税は住んでいる町に納めます。所得税は、仕事をして給料をもらったなら納めます。税金は



主張した子どもたち(敬称略)

【写真左から】

- ・ おじいちゃんとお別れ
堀角 歩夢 (剣北小)
- ・ ぼくの夢に続く道
小南 勇心 (古月小)
- ・ 地域の伝統を守る
古野 響 (剣南小)
- ・ 「あ・そ・べ」の取り組みから学んだこと
岡田 莉緒 (室木小)
- ・ 地域とのふれあいの大切さ
有吉 功輔 (西川小)

少年の主張



み

なさんが、日常生活で大切にしていること、大事にしていることはありますか。私があります。それは、「当たり前前」の事を当たり前にする事です。

家でも、学校でも、家族や先生からよくこんなことを言われます。

「派手なことや目立つことをすることが素晴らしいことではなく、当たり前前の人を素晴らしい。」と。私は、このように思って毎日を生活しているのですが、この「当たり前前」について考えさせられる出来事がありました。

それは、兄の運動会を見に行った時のことです。運動会が終わった後、家に帰ろうと駅に向かって

歩いていると、信号待ちをしている自転車をかついだおじいさんがいました。自転車をかついでいる姿やおじいさんの顔の表情から、困っていることがすぐに分かりました。私は、祖母に、「あのおじいさん何か様子がおかしいね。」

と聞くと、祖母もおじいさんの様子が気になっていたみたいでした。信号が変わるまで、ずっとおじいさんの様子を見ていると声をかけずにはいられないくなり、私と祖母は、そのおじいさんに、「どうされましたか？」と声をかけました。すると、おじいさんは、

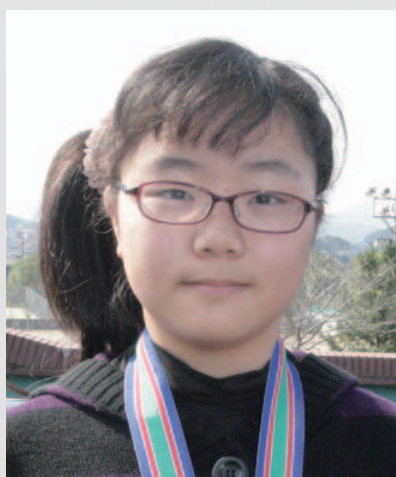
「実は、自転車の鍵を無くしたので、自転車屋まで運んでいるところなんです。」と答えました。私と祖母は、その事情を知り、母と一緒にその自転車を運びました。自転車屋まで運び終えると、おじいさんが、「ありがとうございます。これはお礼ですので、受け取ってください。」とお金を渡されました。私たちは、

「これは受け取れません。」と答えましたが、おじいさんは、「ぜひ。」と手をなかなか引つ込めませんでした。

私は、帰り道の間ずっと、なおじいさんがお金を渡そうとしたのが気になりました。私の中では、困っている人を見たら、助けるのは当たり前前のことと、そこにはお金なんて必要ありません。もちろん私は、お金が欲しくて助けたわけでもありません。なのに何ででしょう。

◎6年生の部 最優秀賞

*大切にしたい、当たり前前のこと



しらかわ
白川ときさん
(新延小学校)

*主張を終えて…ステージ上での主張は緊張しましたが、自分の思いを伝えることができ、気持ちがあがりました。最優秀賞に選ばれたとは思ってなかったので、表彰式で、私の主張の題名が呼ばれた時には、びっくりしました!

この出来事がきっかけで、私は、自分の中の当たり前前の行動を生活の中で見直すようになりました。そうすると、今まで、私の中では当たり前前にできていたことが、実はできていないと気づくことがいくつありました。

例を挙げると、「いただきます」の挨拶です。今の私は、ご飯を食べるとき、「いただきます」と言いますが、手を合わせていないときがあります。二年生で給食センターに行った時、給食センターの方が、「いただきます」というのは、食材にありがとう、感謝しますという気持ちを持ち、動物の命をいただくからだと教えました。それを知ってからは、手を合わせてしっかりと「いただきます」と当たり前前のように言っていたはずなのに、当たり前前が当たり前でなくなっていました。他にも、床にゴミが落ちていたのに拾わず、他のことを優先してしまうことがあります。大きなことには気づけても、小さなことには気づけていない自分がいます。

世の中には当たり前前がたくさんあります。その一つでもやらないでいると、誰かが困ったり、自分が気持ちの良い生活ができなくなったりしてしまいます。日常生活の中にも、まだ私が見落としている「当たり前前」のことがたくさんあるかもしれません。

私は、これから普通のことや普通に行うことができる、つまり、当たり前前になることです。当たり前前を大切に…。

11月3日に行われた「少年の主張」大会。
それぞれが思い思いに主張した15の作品から
最優秀賞に選ばれた作品を紹介します。



中学生の部

主張した子どもたち(敬称略)

【写真左から】

- ・いじめをなくすためには…
下徳邊 ひなた(鞍手中1年)
- ・カカオと児童労働のつながり
森 はるな(鞍手中2年)



○一一年三月十一日、午後二時四十六分に東日本大震災は起こりました。

震源は日本の太平洋三陸沖で、マグニチュードは九.〇です。普段と何一つ変わらない生活を送っている中で、東日本の人たちの身に、突然、地震と津波が襲ってきたのです。

四年前のこの日、私はテレビでその映像を目にしました。たくさんさんの建物、車や田んぼ、畑を巨大な茶色い波がものすごいスピードでのみ込んでいきました。押し寄せてくる津波に逃げまどったり、高台からぼう然と絶望の眼でその様子を見ることしかできない方々の姿が映っていました。もし、そこに映って

いる人が自分だったら、と置き換えてみると、恐ろしくてたまりません。恐怖で体が震えまじりました。

宮城県女川町では、津波によって、鉄筋コンクリート製のビルが基礎部分ごと地面から抜けて、横倒しになったそうです。地震の強い揺れで、一瞬にして家やビルも押しつぶされています。

今年の二月末現在では、死者が十二都道府県で一万五千八百九十人、行方不明者は六県で二千五百八十九人です。一年前に比べ、新たにご遺体が見つかるなどして死者は六人増え、行方不明者はDNA鑑定などで四十七人減りました。それでもまだ、行方や身元が分かっていない方は二千五百八十九人もいます。

東日本大震災はこんなにもたくさんの命を奪い、多くの人たちに苦しみを残したのです。

これは他人事ではありません。安全と言われていた福岡の玄海島でも地震が起こり、全島民が避難しています。相手は「自然」ですから、恩恵もたくさんありますが、いつ、どのような形でどんな被害をもたらすのかの危険性もあるのです。

では、東日本大震災から四年たった今、私たちにできることは何でしょうか。

まずは、震災について「他人事」ではなく、自分の身の上起こったこととして受け止め、考えていくことです。この「東日本大震災」を決して忘れてはいけません。震災によってどのような被害を受けたのか、どのくらいの人が亡くなったのか、今、被災地はどんな状態なのかなどを知って、今の私たちに何ができるのかを考えていきたいです。考えることは、誰にでも、いつでも、できます。そうして考えていけば、募金をしたり、被災地へ想いや声を届けたりすることもできるのです。一番印象に残っているのは、ある飛行機に「がんばれ日本!!」ではなく、「がんばろう日本!!」と書いてあったことです。被災地だけが頑張るのではなく、日本全体で支え合って頑張っていこうという想いがとても伝わってきました。

被害を受けた人の中には大切な家族や友だちを亡くされた方

がたくさんいます。今もお避難所生活を続けたり、行方不明の家族を捜し続けておられる方々もいます。昨日まで一緒に過ごしていた人が突然いなくなる、ということが私には想像できません。人は何かを失って、その失ったものの本当の大切さに気づくのです。失った後でいくら後悔しても、過去はもう二度と戻ってきません。だからこそ、私たちは今を生きていること、生きていられること、たくさんの人たちに支え励まされていることに感謝しなければなりません。そして、お互いに困っているときには助け合い、支え合うことも大切なことです。

学校や地域で、困っていたり助けを求めている人がいたら、まずは、声をかけ、話を聞き、その人の力になれるような方法を考えます。そして、具体的な行動をやり続けていきたいです。何かを失ってしまったときに、できるだけ後悔をしないように、大切な家族や大切な友だちなど、身近な人たちにも、もっと感謝しながら、今、この時を大切に過ごしていきたいです。

●中学生の部 最優秀賞

＊東日本大震災から四年たった今



ほりもと
堀本はるかさん
(鞍手中学校3年)

＊主張を終えて…最優秀賞に選ばれたのは、主張を聴いてくださった皆さんに、私の思いが伝わったからかな、と嬉しくなりました。練習に付き合ってもらった友だちや先生方、家族、そして、聴いてくださった皆さんに感謝します。